

エア・ウォーター

我国初、海水利用飲料水事業始動

ミネラル、容器、サーバー一貫生産、5年後50億円目指す

エア・ウォーターグループ（青木弘CEO会長）は今夏から我国で初となる海水の蒸留水を利用した飲料水事業に着手、先に販売を開始した肥料用塩化カリウムと併せて、海洋資源利用ビジネスに拍車をかけている。

エア・ウォーターは、2007年9月、製塩大手の日本海水をM&Aし、製塩流通の改革や設備リニューアルで利益率を向上するとともに製塩工程から出る苦汁（にがり）を原料として、高品質なマグネシア製品を生産するタテホ化学工業との間で相乗効果が生まれた。それぞれの製品に

必要塩化ナトリウムやマグネシウムの調達が安定、コストダウンできたばかりでなく、残った蒸留水に含まれる多くのミネラル分の有効活用するという発想が生まれ、技術開発を急ぐことになった。

その第一弾が本誌722号で触れた塩化カリウムの分離精製事業で、今年1月、日本海水赤穂工場に年産2000tの生産プラントを稼働、農業肥料用に販売を開始した。続いて、7月に日本海水讃岐工場に蒸留水を煮沸、冷却、濾過し、これに海水から得た各種ミネラルを付加し、それぞれに地域の人の好みや用途

に合わせた飲料水の製造プラントを稼働させ、一般家庭や業務用、工場用などに販売をスタートした。飲料用の生産能力は月間600t、1日当たり12t容器で20000本分である。

エア・ウォーターはこれまでもウォーター事業部で、北海道、埼玉の2カ所に水道水を利用した飲料水事業を展開、一般家庭用、業務用を中心に2万軒、年商10億円規模となつている。今回グループで3カ所目の飲料水工場が完成したわけだが、原料からミネラルまで全て海水から得ているのが、日本では画期的であり、商業的プラントとしては世界でも初ではないかとみられる。

しかも、飲料水ばかりでなく、容器、サーバーも自社開発、物流もグループで担うという附属品、サービス一貫体制を敷く。コストダウンのため、容器は客先で処理できるワンウェイボトルを採用した。エア・ウォーターの青木弘会長は常々

「資源に恵まれない我国で経済海域だけは世界でも有数、レアメタル、レアアースなど潜在的資源も豊富だから、海洋開発はこれからの国家的テーマとなろう。我々がやれる

範囲はそこまではないが、原料やミネラルを全て海から得、自社で作る意味は大きい。地下水から得るとどうしても枯渇や地盤への影響という課題が残る」と述べており、海水事業の一環としての取り組みに意欲をみせる。

製品化するにあたっては、プロの調理師に依頼し、水のテイストともいふべき審査を経ており、エア・ウォーター製ミネラルの調合具合によって選抜された甘み、旨み、硬度を保っている。

サーバーは夏場は節電できるエコスイッチ付きなど工夫を凝らした。販売はエア・ウォーターのウォーター事業部が産業用途、四国の最大手都市ガスの四国ガスが家庭用のルートとなる。産業用については飲料水需要の多い造船所や鉄工所などに照準をあてている。味や競争力が見込める海水利用飲料水の本格的発売によって、5年後50億円規模のビジネス拡大を目指している。

同社はガスや肥料の利用と連関する農園事業や介護福祉関連でも新しい事業化の動きがあり、ガスを中核にしたグループ複合経営はますます強化されている。